

# MCCIR

vol.19 株式会社メガチップス  
2013年3月期のご報告  
2012年4月1日～2013年3月31日

P3 どう変わる?メガチップス

P5 社長が語るメガチップス  
新生メガチップスとして  
国内外での競争力を磨き  
さらなる成長を目指します。

2013年3月期のご報告  
2012年4月1日～2013年3月31日

## Mega Chips

株式会社メガチップス

〒532-0003 大阪市淀川区宮原1丁目1番1号 新大阪阪急ビル  
TEL.06-6399-2884 (代) FAX.06-6399-2886

<http://www.megachips.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォ  
ントを採用しています。



ミックス  
責任ある木質資源を  
使用した紙  
FSC® C022915



この報告書は植物油イン  
キを使用して印刷してい  
ます。

郵便はがき

102-8790

220

東京都千代田区一番町17-6 一番町M5ビル5F

株式会社メガチップス  
広報課行

郵便局承認  
4375

差出有効期間  
平成25年8月  
31日まで  
(切手不要)



### 株主様アンケート

お手数ですが、ハガキにご回答の上、ポストへご投函くださいますようお願いいたします。

株主様のプロフィールをご記入ください。

- 性別：男性 女性
- 年齢：10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代～
- 職業：会社員 自営業 公務員 主婦 その他( )
- 当社株式保有数：  
単元未満(100株未満) 100-199株 200-299株  
300-399株 400-499株 500-999株 1,000株以上
- 当社株式保有期間：  
1年未満 1年以上3年未満 3年以上5年未満  
5年以上10年未満 10年以上
- 居住地：  
北海道 東北 関東 中部 近畿 中国 四国  
九州・沖縄

※ご記入いただいた情報は、アンケート集計以外の目的には使用いたしません。  
※2013年7月31日までに投函ください。



キリトリ線

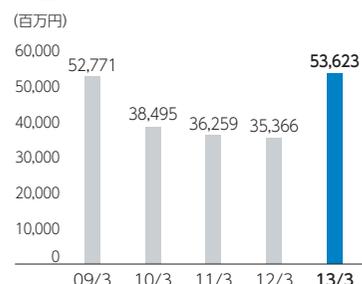
ハガキをご投函の際は、点線にそって切り離してください。



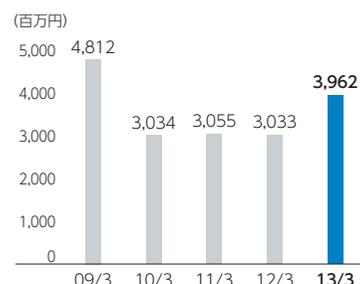
株式会社メガチップスおよび連結子会社3月31日に終了した連結会計年度

	2009	2010	2011	2012	2013
<b>会計年度(単位:百万円)</b>					
売上高	52,771	38,495	36,259	35,366	<b>53,623</b>
売上原価	43,671	31,833	29,731	28,687	<b>40,568</b>
営業利益	4,812	3,034	3,055	3,033	<b>3,962</b>
当期純利益	2,672	2,140	2,288	2,127	<b>4,044</b>
<b>会計年度末(単位:百万円)</b>					
総資産	33,115	26,612	29,203	29,247	<b>44,075</b>
純資産	20,564	24,439	25,453	24,977	<b>27,595</b>
<b>1株当たり情報(単位:円)</b>					
当期純利益	110.21	88.19	94.64	88.80	<b>170.23</b>
純資産	849.02	1,006.08	1,060.19	1,042.70	<b>1,181.89</b>
期末発行済株式総数(単位:株)	24,667,317	24,353,900	24,038,400	24,038,400	<b>24,038,400</b>

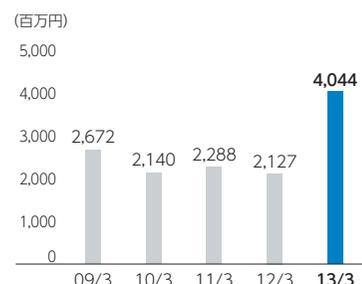
#### 売上高



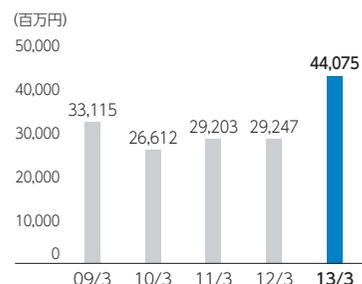
#### 営業利益



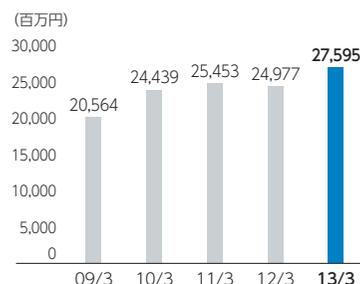
#### 当期純利益



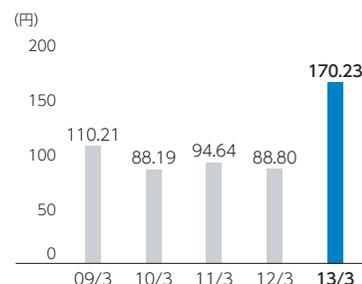
#### 総資産



#### 純資産



#### 1株当たり当期純利益



### Contents

- |                 |               |            |
|-----------------|---------------|------------|
| 1 財務ハイライト       | 5 社長が語るメガチップス | 10 CSR     |
| 2 プロフィール        | 8 会社情報/役員構成   | 11 決算レポート  |
| 3 どう変わる? メガチップス | 9 研究開発        | 12 株主様ラウンジ |

#### 見直しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実ではないものは将来に関する見直しおよび計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見直しとは異なる場合がございます。

## プロフィール Profile

### ミッション

高い技術力をベースに、人々の安心や安全、豊かな生活、地球環境維持の実現に貢献する。

### ビジョン

“新しいアプリケーションを創造すると共に、システムソリューションを提供し続ける”グローバル企業として存在する。

メガチップスは、ファブレス(工場を持たない)の半導体メーカーとして1990年に創業しました。以来、画像・音声・通信分野において高い技術力を武器に独創的なLSIやシステム機器を生み出して、顧客メーカーの課題を解決するための優れたソリューションを提供してきました。

連結子会社である川崎マイクロエレクトロニクスとの合併(2013年4月)を機に、顧客サポート体制を拡充し、グローバル企業としての『新生メガチップス』の第一歩を踏み出しました。

詳細はホームページへ [メガチップス](#) [検索](#)

### 開発実績

<p>ゲーム機向けLSI</p> 	<p>デジタルカメラ向け画像処理LSI</p> 	<p>液晶パネル向けLSI</p> 
<p>映像監視システム機器</p> 	<p>リアルタイム電力自動測定システム</p> 	

### 経営統合の歩み

- 2012年4月20日 川崎マイクロの株式取得(子会社化)に関する基本合意書の締結
- 2012年7月1日 川崎マイクロの株式を取得し完全子会社化
- 2012年7月27日 メガチップスと川崎マイクロの合併を発表
- 2013年4月1日 メガチップスと川崎マイクロの合併

どう変わる? メガチップス

次のページへ →

# どう変わる？メガチップス

経営統合によって何が変わり、何が実現できるのか、両社のシナジーについてご紹介します。

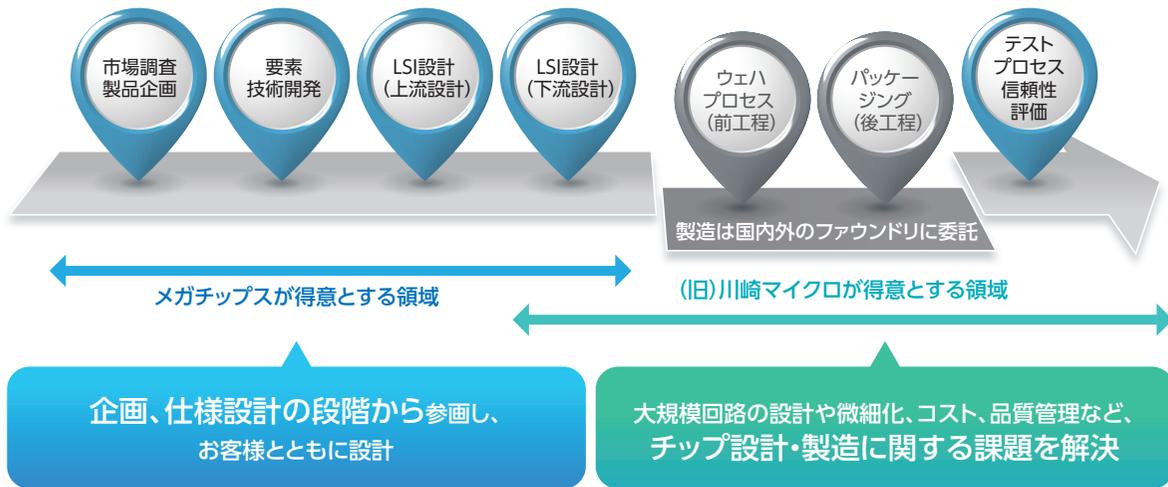
POINT

1

## 一貫サポート体制の強化

開発から製造・品質保証まで、全ての工程をサポートし、幅広い顧客ニーズにお応えできます。

メガチップスは、顧客が希望する製品をいかに実現するかを考える段階から携わることで、LSIの仕様策定や論理設計のノウハウを蓄積しています。また、(旧)川崎マイクロは下流の物理設計、製造オペレーションを得意とし、プロダクトの品質やコストに関する課題解決に力を発揮してきました。両社の統合によって企画から供給までの一貫サポート体制が整い、高度化・多様化し続ける顧客からの要請にお応えしています。



POINT

3

## グローバル化の加速

(旧)川崎マイクロの海外ネットワークをベースに営業、開発、生産調達のグローバル化を推進し、継続的な企業成長をめざします。

メガチップスは国内の特定の顧客に密着した事業展開を図ってきましたが、今後、継続的に成長していくためには積極的な海外進出が不可欠と考えています。今回、経営統合した(旧)川崎マイクロは海外に顧客を多数抱え、アメリカ、中国、台湾、インドに拠点を展開する半導体メーカーとして活動してきました。新生メガチップスはこのネットワークを活かし、営業強化はもちろん、開発の効率化のためのオフショア開発体制の整備や生産調達体制の拡充など、グローバル化を推進していきます。



POINT

2

## 技術・ターゲット分野の拡大

デジタル技術とアナログ技術を融合させることで、ターゲットとする分野を拡大し、付加価値の高いソリューションを提案していきます。

メガチップスはデジタル技術に強みがあり、画像処理や音声処理、通信技術を中心としてIP(設計資産)を蓄積しています。一方、(旧)川崎マイクロは、液晶パネル内のデジタルデータの超高速伝送技術や光通信ネットワーク技術など、アナログ技術において豊富な実績を積み重ねてきました。両社の統合後、相互の得意技術を融合した電力線通信向けの技術開発に取り組んでおり、今後も付加価値の高い提案に向けて連携を進めていきます。



### 用語解説 Key Word

#### 論理設計と物理設計

論理設計ではLSIの回路を考え、正しく動作するかどうかを検証します。物理設計では、論理設計によって具体的な電子回路を基板上に配線します。

#### IP(設計資産)

システムLSIを構成する機能回路やその上で動く組み込みソフトウェアを指します。これらが最終製品の性能を左右することから「資産」と捉え、各社とも権利化を進めています。

#### アナログ技術

デジタル信号を人が感じるためにアナログ信号に変換するのが、アナログ技術です。美しい画質やきれいな音質など人の繊細な感覚に関わる技術であり、最終製品の付加価値や競争力をも左右することから、技術者には長年の熟練・経験が求められます。



# MegaChips

新生メガチップスとして  
国内外での競争力を磨き  
さらなる成長を目指します。

代表取締役社長 高田 明

## 川崎マイクロエレクトロニクスの連結 子会社化に加え、複数の新製品の量産 寄与により、増収増益となりました。

2013年3月期の事業環境は、国内外ともに景気が後退したものの、年度終盤には持ち直す動きも見られました。電子機器業界においては、一部の産業用電子機器の需要が前年に比べて増えたものの、半導体などの電子部品や民生用電子機器の需要は減少し、業界全体の市場は引き続き低調でした。

こうした背景のもとで、当社が持続的に成長していくためには、これまで以上に顧客の多様なニーズに応えながら、国際的な競争力を磨き海外市場にも積極的に進出していく——環境変化に強いグローバル企業に成長する必要があります。そこで、2012年7月1日、JFEホールディングス(株)から川崎マイクロエレクトロニクス(株)(以下、川崎マイクロ)の全株式を取得し、第2四半期連結会計期間から同じグループでの事業活動を開始しました。海外拠点をもちグローバルに

顧客を抱え、かつLSIの実装設計や製造・品質管理技術を得意とする川崎マイクロと、上流の企画・開発力に強みをもつ当社の能力を結集することで、より多様な顧客の課題解決に貢献できる体制を実現しました。(→P3-4「どう変わる?メガチップス」参照)

2013年3月期の業績は、第2四半期連結会計期間以降の川崎マイクロの連結効果もあり、大幅な増収増益を達成しました。まず、売上高については、主力のゲームソフトウェア格納用LSI(カスタムメモリー)の需要は減少したものの、画像分野の新製品が複数寄与したこと、液晶パネル向けLSIや事務機器向けLSIなどを販売する川崎マイクロの売上高が第2四半期連結会計期間以降に加わったことにより、前期比51.6%増の536億2千3百万円となりました。また、営業利益は、両社の開発の効率化等による費用削減効果もあり、前期比30.6%増の39億6千2百万円でした。当期純利益は、川崎マイクロの子会社化に伴う負のれん発生益を14億6百万円計上し、前期比90.1%増の40億4千4

### 負のれん発生益

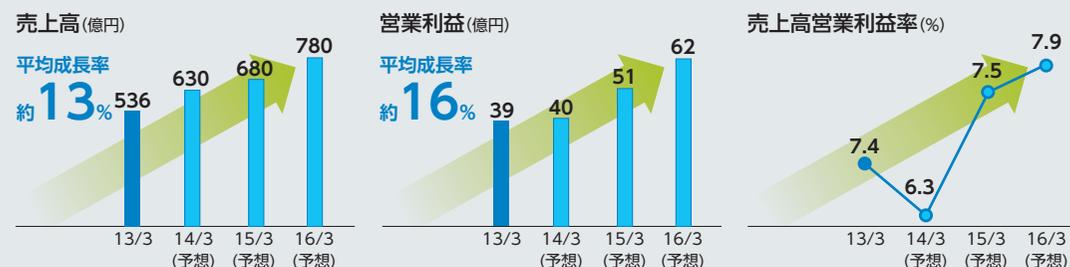
別企業を子会社化する際、株式取得時の時価純資産額が取得価額を上回った差額。当社は、川崎マイクロの子会社化に伴って生じた負のれん発生益(約14億6百万円)を2013年3月期に特別利益として計上しました。

## 中期経営計画(2014年3月期~2016年3月期)

新しい価値の創造と高い技術力により、人々が幸せを実感できる豊かな未来社会作りに貢献します。

- |   |                             |
|---|-----------------------------|
| <b>2014年3月期<br/>中期成長戦略</b><br>『新しいアプリケーションを創造すると共に、システムソリューションを提供し続ける』<br>グローバル企業として存在する。 | 1 国内コンシューマ市場向けの事業基盤を強化する。   |
|   | 2 国内の成長産業分野において、新たな事業育成を図る。 |
|   | 3 グローバルマーケット進出のための体制を強化する。  |
|   | 4 積極的な株主還元を行う。              |

### 数値目標



※2013年3月期第2四半期から、川崎マイクロの業績が合算されています。

百万円となりました。

## 中期経営方針のもと 国内外で事業拡大を図ります。

当社は、事業年度ごとに経営環境の変化に応じて計画を見直すローリング方式を採用し、3カ年の計画・数値目標を公表しています。2014年3月期は、経営統合のシナジーをさらに発揮すべく、中期経営方針として次の3つを掲げました。

その1つめは、「国内コンシューマ市場向けの事業基盤を強化する」ことです。当社が従来から得意としている主力のコンシューマ分野においては、既存顧客との信頼関係をベースに長期のビジネス関係を維持し、事業

基盤として堅持します。これまで培ってきたシステムLSIからソフトウェアまで幅広く対応できる当社の技術力・開発力をさらに強化し、顧客の要望に応えるソリューションを提供していきます。一方で、新たな顧客を開拓するため、複合機をはじめとする事務機器分野などにおいても、事業拡大を図っていきます。

2つめは「国内の成長産業分野において、新たな事業育成を図る」ことです。先端技術が求められる環境、エネルギー、自動車、インフラ産業など技術集積型の市場をターゲットに、ソリューションの企画や技術開発を進めていきます。さらに、これらの分野におけるアプリケーション(用途)開発やマーケティング強化にも力を入れることで、顧客ビジネスに貢献できる新たな事

### コンシューマ分野

コンシューマは一般消費者のこと。当社においては家庭用ゲーム機、デジタルカメラ、液晶テレビなどの分野を指します。

### システムLSI

多数の機能を1つのチップで実現するLSIのこと。例えば当社では、映像処理、音声処理、通信処理、メモリーの機能を搭載したシステムLSIを開発しています。

### 複合機

コピー、プリンタ、スキャナ、FAXなど複数の機能を搭載した事務機器のこと。

業を創出し、将来の柱として育てていきたいと考えています。

3つめは「グローバルマーケット進出のための体制を強化すること」です。アメリカ、中国、台湾、インドの海外拠点を活用し、国内外の事業展開の拡大を図るため、オフショア開発の拠点を整備するとともに、海外での生産委託体制を強化します。また、グローバル人材の育成にも積極的に取り組みます。

これらの取り組みを通じて、2014年3月期の連結業績予想は、売上高630億円(前年同期比17.5%増)、営業利益40億円(同0.9%増)、経常利益40億円(同2.9%減)、当期純利益48億円(同18.7%増)を見込んでいます。

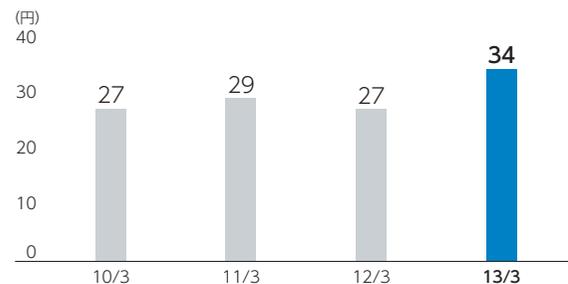
また、3か年の最終年度である2016年3月期に「売上高780億円」「営業利益62億円」の達成を目指します。

### 配当方針に基づき、株主様への積極的な利益還元を努めます。

当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の重要な施策として位置づけています。株主配当については、当社の配当政策に基づき配当金を決定し、年1回実施する方針としています。

2013年3月期は、当社の配当政策に基づき、連結当期純利益の額から「会計・決算上の特殊要因」である川崎マイクロ子会社化に伴う負ののれん発生益(連結決

#### 1株当たり配当金推移



#### オフショア開発

海外の子会社や事業者に開発を委託すること。コストを抑えられる、時差を有効活用して工期を短縮できるといったメリットが注目を集めています。当社では米国、インドで開発を行っています。

算上の利益)14億6百万円を減算し、その30%程度を配当金総額として決定し、1株当たりの配当を年間34円(前期は年間27円)とさせていただきます。

また、資本効率向上のために自己株式を取得し、株主の皆様へ還元するよう努めています。2013年3月期は、取得した自己株式の総数が605,400株、取得価額の総額が9億4千3百万円となりました。

### 2014年3月期、新生メガチップスは、グローバル企業としての飛躍を目指します。

2013年4月1日にメガチップスと連結子会社の川崎マイクロは合併し、新生メガチップスとして始動しました。この経営統合の狙いは、新生メガチップス全社員が価値観を共有し、共通の使命・目標を設定して、経営資源を効率的に最大限活用し、中長期的に環境変化に強いグローバル企業としての土台を確立することです。

私は、経営統合によって新しい一歩を踏み出した2013年の社内スローガンを「One MegaChips」としました。これは、社員が心を一つにして、1日も早く新しいメガチップスをつくりあげようという意思を含めたものです。今後も、我々は、「LSIの知識」に加え、アプリケーションの知識、サービス環境の知識、などを“融合”することによる「LSIと異分野の知識の融合」をコンセプトに、当社ならではの魅力的なソリューションを創造し、企業価値の向上に努めます。そして、変化する市場のニーズに応えることで豊かな社会の実現に貢献し継続的な成長を目指していきます。

株主の皆様には、引き続きご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 **高田 明**

#### 生産委託体制

海外に生産を委託する上では生産・品質管理や商習慣に関する広範なノウハウが求められます。ファブレスメーカーとしての当社の実績に川崎マイクロが蓄積したネットワークや経験をプラスして対応しています。



## 会社情報/役員構成 (2013年6月21日現在)

Corporate Data / Directors and Auditors

会社商号	株式会社メガチップス	所在地 (本社)	〒532-0003 大阪市淀川区宮原1丁目1番1号 新大阪阪急ビル TEL. 06-6399-2884(代表)
英文商号	MegaChips Corporation	(東京事業所)	〒102-0082 東京都千代田区一番町17番地6 一番町MSビル
設立	1990年4月4日	(幕張事業所)	〒261-8501 千葉県美浜区中瀬1丁目3番地
上場	東証1部(証券コード6875)	(海外拠点)	台湾、インド、アメリカ、中国
資本金	4,840百万円		
従業員数	703名(2013年3月31日現在 連結)		
事業内容	システムLSI、自社システムLSIを使った電子部品およびシステム製品の設計・開発・製造(外部委託)・販売		

### 役員

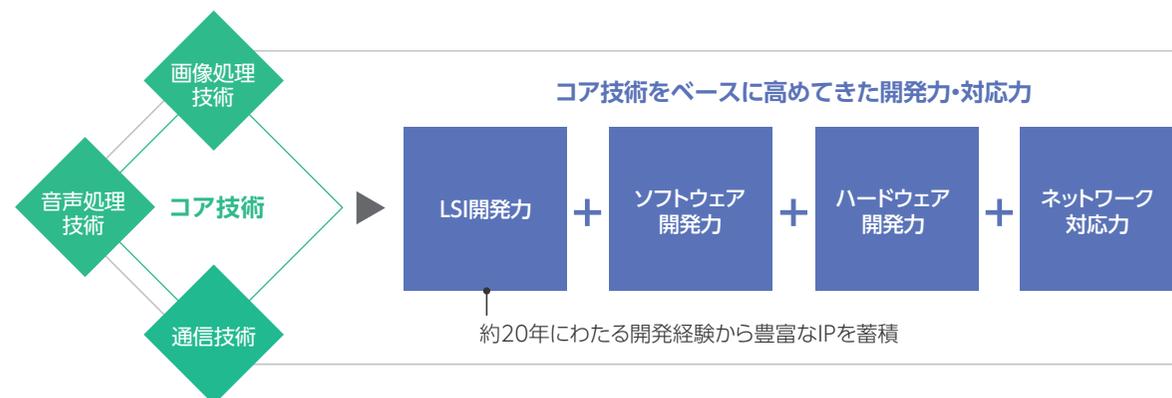
			
代表取締役社長 高田 明	取締役副社長 松岡 茂樹	専務取締役 藤井 理之	取締役 肥川 哲士
			
取締役 佐々木 元	取締役 吉清 恭一	社外取締役 赤星 慶一郎	社外取締役 游 敦行
			
常勤監査役 角 正	社外監査役 中西 藤和	社外監査役 小原 望	社外監査役 北野 敬一

※ 取締役 赤星 慶一郎氏および游 敦行氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。  
※ 監査役 中西 藤和氏、小原 望氏および北野 敬一氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

## 画像・音声・通信分野の独自技術をコアに 独創的な製品を創出しています

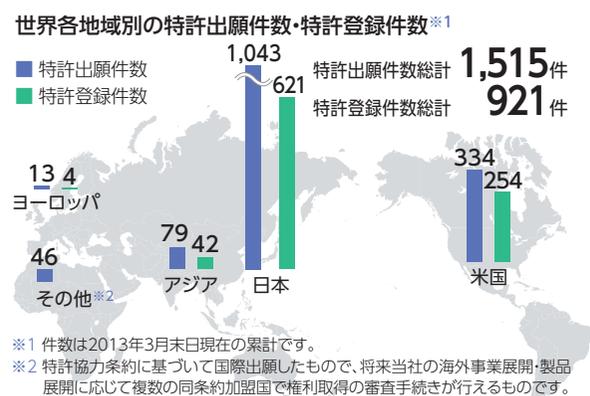
メガチップスは、独自のコア技術を活用して顧客ニーズに応えるとともに、他社製品との差別化を実現する応用技術の研究開発に取り組んでいます。また、こうした研究開発による優位性と独自性を確保するために、知的財産の権利化を推進しています。

**研究開発方針**  
画像・音声・通信分野のシステムLSI、システム製品および当該製品を利用したソリューションを提供すること



### 知的財産戦略

ファブレスメーカーであるメガチップスにとっては、研究開発のアイデアやノウハウなどの知的財産が事業競争力の源です。したがって、知的財産を権利として保護することが、競争力や成長力の向上につながります。メガチップスでは知的財産の権利化を進めており、2013年3月期の取り組みとしては、車載カメラ向け画像認識技術、監視カメラ向け画像認識技術、動画画像圧縮技術、暗号処理技術、センサー関連技術、監視カメラ関連技術などについて特許出願を実施しました。



### TOPICS 海外有力IPベンダーとのライセンス契約を締結しました。

2012年12月、ARM Limitedおよび日本シノプシス合同会社(米国本社Synopsys, Inc.)とIPに関するライセンス契約を、Tensilica®, Inc.とデザインセンター契約

を締結しました。今回の締結によって、海外でも評価の高い各社のIPを容易に調達できるようになり、優れたLSI製品の開発を加速させることができます。

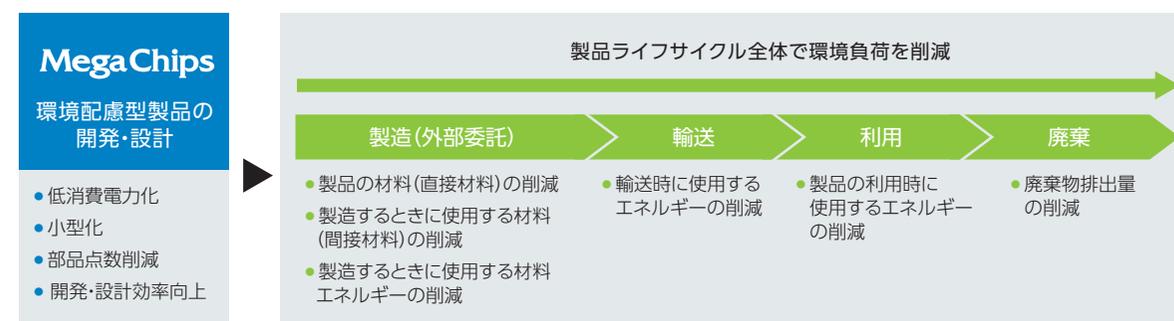
## 高い技術力をベースに、世の中に必要とされる サービスや製品を生み出すことで社会に貢献していきます。

### 環境マネジメントシステム

「環境と経営の共生」を実現するために、国際規格ISO14001に準拠した環境マネジメントシステムを構築しています。環境方針を定め、製品の低消費電力化や小型化に取り組む「環境配慮、高循環型製品づくり」、

独自のグリーン調達ガイドラインに基づく「環境負荷化学物質の削減、グリーン調達」、事業所内での省エネルギー、省資源に取り組む「エコオフィス活動の推進」、 「法令、その他要求事項の順守」を実践しています。

### 環境配慮型製品の開発による主な環境負荷削減効果



### 品質マネジメントシステム

メガチップスは、高品質な製品・サービスを顧客にお届けするため、国際規格ISO9001に基づく品質マネジメントシステムを構築。品質方針を定めて全社員に周知するとともに、全社および各部門の目標を設定し、達成に向けた活動を推進するとともに、レビュー(評価)を

通じて継続的に改善しています。また、品質の管理・保証を徹底するために、設計から量産に至る各工程で各種の審査・試験・監査などを実施。品質保証部を中心に、社内の設計部門と生産委託先の双方に対して適切な指導と監視ができる体制を確立しています。

### TOPICS 平成25年度 知財功労賞 経済産業大臣表彰を受賞しました。

2013年4月、特許庁から「知財功労賞」の「経済産業大臣表彰」を受賞しました。この賞は、産業財産権制度を有効に活用し、その発展に貢献のあった企業に対して贈られるものです。メガチップスは、特許の権利化を促進し、特許を自社の技術やビジネスに加えて顧客のビジネスも守るために活用している点、若手エンジニアや中堅社員の育成にあたり、特許について実践的に教育している点などが評価されました。



連結貸借対照表

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

科目	当連結会計年度 2013年3月31日現在	前連結会計年度 2012年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	33,087	25,434
現金及び預金	10,431	7,228
受取手形及び売掛金	16,877	15,636
たな卸資産	3,701	1,696
その他	2,077	873
固定資産	10,987	3,813
有形固定資産	1,893	83
無形固定資産	689	57
投資その他の資産	8,403	3,671
資産合計	44,075	29,247
<b>負債の部</b>		
流動負債	11,097	4,231
支払手形及び買掛金	3,443	2,252
未払法人税等	529	699
その他	7,124	1,279
固定負債	5,381	39
負債合計	16,479	4,270
<b>純資産の部</b>		
株主資本	27,330	24,876
資本金	4,840	4,840
資本剰余金	6,181	6,181
利益剰余金	17,364	13,967
自己株式	△1,056	△112
その他の包括利益累計額	265	100
純資産合計	27,595	24,977
負債純資産合計	44,075	29,247

損益計算書および包括利益計算書

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

科目	当連結会計年度 2013年3月31日現在	前連結会計年度 2012年3月31日現在
売上高	53,623	35,366
売上総利益	13,054	6,679
販売費及び一般管理費	9,092	3,645
営業利益	3,962	3,033
営業外収益	231	304
営業外費用	73	76
経常利益	4,120	3,262
特別利益	1,406	199
特別損失	90	1
税金等調整前当期純利益	5,436	3,460
法人税等	1,391	1,332
当期純利益	4,044	2,127
その他の包括利益	164	△1,840
包括利益	4,208	287
(内訳)親会社株主に係る包括利益	4,208	287

キャッシュフロー計算書

(単位:百万円、単位未満切り捨て)

科目	当連結会計年度 2013年3月31日現在	前連結会計年度 2012年3月31日現在
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,748	1,032
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,672	△430
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,496	△760
現金及び現金同等物に係る換算差額	631	△116
現金及び現金同等物の増減額	3,203	△275
現金及び現金同等物の期首残高	7,228	7,503
現金及び現金同等物の期末残高	10,431	7,228

決算のポイント

Point 1 4  
負債と投資キャッシュ・フロー

負債は、川崎マイクロの株式取得を主な理由として長期借入金が増加したことから、164億7千9百万円となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、川崎マイクロの株式取得に伴う支出が67億5千2百万円あったことなどから、96億7千2百万円の資金の使用となりました。

Point 2 3  
売上高・営業利益

主力のゲームソフトウェア格納用LSI(カスタムメモリー)の需要は減少したものの、新製品が寄与したほか、川崎マイクロの第2四半期連結会計期間以降の連結効果により、売上高は536億2千3百万円(前年同期比51.6%増)、営業利益は39億6千2百万円(同30.6%増)となりました。

株主様へのアンケート結果のご報告

「MCCIR Vol.18」誌上のアンケートにおいて、株主の皆様からご回答いただきました貴重なご意見は、今後の経営およびIR活動に活かしてまいります。

Q1 当社株式の保有期間は?



Q2 今後詳しく掲載を行って欲しい情報は何でしょうか?

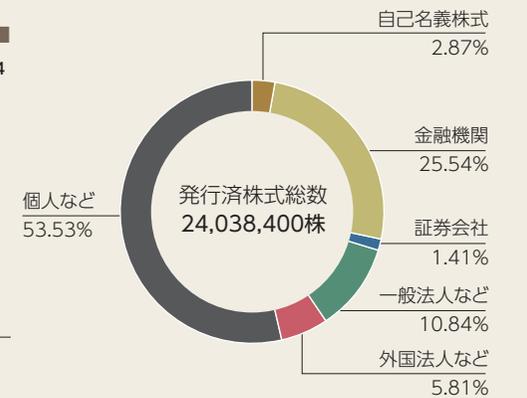


当社の株主構成

株主数推移



所有者別株式分布



Topics WEBリニューアルのお知らせ

新生メガチップス誕生に伴い、WEBサイトを一新しました。

経営統合にかける社長の想いを語ったトップインタビューをはじめ、一般的なファブレスメーカーにとどまらないメガチップスの多彩な特長や幅広いソリューション・サービスのご紹介など、さまざまなコンテンツをご用意しています。

今後も、より充実したWEBサイトとするべく、株主の皆様のご意見やご感想をお聞かせいただければと存じます。ぜひご覧ください。

<http://www.megachips.co.jp/>



## 配当について

2013年3月期の配当は1株当たり年間34円(前回は年間27円)とさせていただきます。配当金の算定にあたりましては、当社の配当政策に基づき、連結当期純利益の額から「会計・決算上の特殊要因」である川崎マイクロ子会社化に伴う負のれん発生益(連結決算上の利益)14億6百万円を減算し、その30%程度を配当金総額として決定しております。

## 自己株式の取得について

2013年3月期に実施した資本市場からの自己株式の取得につきましては、2012年9月に305,400株、2013年2月に300,000株の取得総数が605,400株、取得価額の総額が9億4千3百万円となりました。メガチップスでは、株主還元策の1つとして重視して、資本効率向上のため、市場の状況、株価動向、財務状況等を勘案し、機動的に自己株式を取得し、株主の皆様へ還元するよう努めてまいります。

## 2013年度 株主優待について



株式会社高島屋カタログ



「ルイージマンション2」※  
©2013 Nintendo



「ペーパーマリオ スーパースター」※  
©2012 Nintendo  
Program ©2012 Nintendo /  
INTELLIGENT SYSTEMS

メガチップスでは、株主の皆様の日頃のご支援に対して感謝の意を表するため、株主優待制度を設けています。本年も2013年3月31日現在で当社株式を100株(1単元)以上ご所有の株主様に心ばかりの品を贈呈させていただきます。本年度は、株式会社高島屋の提供する商品カタログの中から、希望される商品1点(3,000円相当)、または任天堂株式会社製ニンテンドーDS®用ソフト、ニンテンドー3DS™専用ソフトの中から1点をお届けします。なお、株主様への株主優待カタログは6月上旬に発送しています。

※Wii U・ニンテンドー3DS・ニンテンドーDSは任天堂の登録商標または商標です。

**ご注意 ▶** 株主優待は、毎年3月31日現在の株主名簿に記録された、100株(1単元)以上のご所有の株主様を対象に行っています。ご転勤などでご住所を変更される場合は、証券会社等口座開設先に必ず住所変更届をご提出ください。株主優待に関する当社からのご案内書が届けられない場合が少なからず発生しています。なお、株主優待品につきましては、申込受付期日を過ぎますとお受けできなくなりますので、ご注意ください。

## 今後の活動予定(IRカレンダー)

2013			2014
7月	2013年3月期 アニュアルレポート(英文版)発行	7月26日	2014年3月期 第1四半期 決算発表
		10月29日	2014年3月期 第2四半期 決算発表
		1月31日	2014年3月期 第3四半期 決算発表

## 株主メモ

決算日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日
配当基準日	毎年3月31日 この他、取締役会の決議により、予め公告して基準日を定めることができます。
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 お問合せ先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話：0120-094-777(通話料無料) 受付時間：土・日・祝祭日等を除く平日9:00～17:00
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL <a href="http://www.pronexus.co.jp/koukoku/6875/6875.html">http://www.pronexus.co.jp/koukoku/6875/6875.html</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。)

- (ご注意)
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなります。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんので、ご注意ください。
  - 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎします。
  - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いします。

## IR活動の充実に向け 株主様アンケートにご協力ください

2013年7月31日  
まで受付

- アンケートにご協力いただきありがとうございました。
- Q1. 株主通信「MCCIR」vol.19の内容で、興味を持たれた記事・コーナーをお選びください。(複数回答可)
- どう変わる?メガチップス  
 社長が語るメガチップス  
 p6図説「中期経営計画」  
 会社情報  
 研究開発  
 CSR  
 決算レポート  
 株主様ラウンジ(株主様アンケート結果のご報告)  
 株主様ラウンジ(配当・自己株式の取得について)  
 株主様ラウンジ(株主優待について)  
 株主様ラウンジ(今後の活動予定・株主メモ)
- Q2. 今後、詳しく掲載を行って欲しい情報は何か。(複数回答可)
- 経営者メッセージ  経営方針  中期経営計画  
 業績・財務情報  事業内容  新技術情報  配当  
 CSR情報  その他( )
- Q3. 今後強化して欲しいIR活動・ツールは何か。(複数回答可)
- 当社ウェブサイト  MCCIR(株主通信)  
 個人投資家説明会  IRフェアへの出展  株主総会  
 IR雑誌や新聞への掲載・広告出稿  
 その他( )
- Q4. 当社ホームページをご覧になったことはありませんか?  
 ある  ない
- Q5. 株主通信「MCCIR」のご感想またはIR活動へのご要望をお聞かせください。